

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	飯倉 菜歩	学年(渡航時)	3 年
派遣先大学	レスブリッジ大学		
国・地域	カナダ・アルバータ		
派遣期間	2024 年 9 月	～	2025 年 4 月

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
The Anthropological Perspective	人類学という学問について、幅広く講義形式で学ぶ。毎回言語、ジェンダー、文化などテーマが決まっており、授業前までに教科書を読んでおく。
Material of Music	音楽の構成要素であるリズムや音、音階について学んだり、楽譜を読み書きする練習をしたりする。楽器内に 3 回、ドラムを実際にたたいてみる授業もあった。
Introduction to World Religions	キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教、ヒンドゥー教、中国と日本の宗教についてそれぞれ講義形式で学んだ。どのように宗教が生まれ発展してきたのかや、その国の神話についてを学ぶことができて面白かった。
2 学期目	
履修科目	授業内容
Percussion Ensemble I	レスブリッジ大学にある global drum というクラブと兼ねていて、学期末にあるコンサートに向けて練習する。学外からもメンバーが集まっているため、様々な年齢層の人と交流しながら、世界中のドラムに触れることができる。今回はたまたま日本の和太鼓パフォーマンスをする機会もあった。一番好きだった授業！
Introduction to New Media	Adobe ソフトを使ったポスターやウェブサイトの制作技術、そして効果的に表現する方法を学ぶ。授業外では授業と同時並行で教科書のチュートリアルを進めておく必要があり、それが大変だった。計画的腐敗やマイクロチップの開発についてのドキュメンタリーを見てそれに関してポスターを制作したり、自分のウェブサイトを作ったりした。
Religion, World Views & Identity	1 学期目にとった宗教の授業の次のレベルの授業。時代の流れや社会の変化のなかで宗教に対する見方がどのように変わってきたのかや、学問的に宗教を学ぶための多方面からのアプローチについて学習する。それぞれの宗教の関わり合いについて学ぶ。テストが多かった前期の授業に比べて、この授業ではエッセイの提出も 3 回あった。短い字数の中で参考文献を 15 個使う必要があったので大変だった。
Beginners' Spanish I	スペイン語の初級クラス。多文化社会学部の単位には変換できないが、余裕があったため履修した。長崎大学で履修していた第 2 外国語の授業よりも圧倒的に話したり聞いたりすることが多かった。

留学レポート(1,500 字以上)

レスブリッジは、カルガリーからバスで 3 時間ほどのところにある小さなまちだった。レスブリッジという貨物が通るための橋が通っており、その下には大きくおだやかな川が流れている。また、クーリーという小さな丘のような地形が沢山あり、天気の良い日にはそこでハイキングを楽しむことができる。気候的には年中乾燥しており、雨が降ることはほとんどない。私が留学した年はマイナス 40 度まで到達することはなかったが、それでも冬(10 月後半～4 月)はとても寒かった。ただ想像と違ったのは、冬中ずっと氷点下なわけではなく、2, 3 週間ごとに寒くなったり少し暖かくなったりすることだ。私はコートやブーツは持って行かなかったのも、着いてすぐに冬におびえて防寒着を多めに買った。しかし、その中であまり使わないものもあったので、あたたかく着まわしやすい服が数着あれば十分だと思う。レスブリッジは買い物するところがないと聞いていたが、私はモールや古着屋で 8 か月に必要な服は十分手に入ると思った。

炊飯器が家にあったのと、日本食店で日本の調味料が手に入ったので、クオリティは下がるものの日本食を日々口にすることはできた。ただ値段が高いので、スツケースに余裕がある場合はだしやインスタントのみそ汁などを日本から持って行ったら良いと思う。

私は大家さんとは住む場所がわかれているホームステイの滞在先を選んだ。ルームメイトと 2 人でバスルームやキッチン、テレビや電子ピアノがあるリビングルームを使ったが、自分の部屋もあってとても居心地が良かった。バス停から徒歩 10～15 分と少し離れているが、バスで大学まで 5 分ほどだったので不便ではなかった。大家さんが月に一度、車で安いスーパーに連れて行ってくれたり、イベントの時にはディナーに呼んでくれたりしたのでとても良い経験になった。家賃は清掃費も込で月 750CAD だった(月に2回、大家さんがクリーニングに来てくれていた)。

大学はとても広く、ジムや体育館、予約制のスタディールーム、カフェテリアなど充実した設備が整っていた。多くの学生が勉強のリフレッシュとして運動をしていたので、私もよくジムで運動したり、体育館でボールを借りてバスケットやバレーをしたりしていた。体育館シューズを持って行ったのがすごく役に立った。週の授業の時間自体は多くないが、リーディングやクイズなどの予習復習が毎週大変だったので、授業以外の時間でいかに勉強と遊びのバランスを取るかが難しかった。機会を全部逃すまいと遊びも勉強も 100 パーセントの力で頑張っていた時期があったが、その後精神的にどっと疲れが出てしまったので、力みすぎずに自分をいたわることも覚えた留学期間だった。

1 学期目は、週末にカルガリーとバンフまでバスで出かけた。青い湖で有名なモレーン湖は写真でみていたよりも何倍も美しかった。ただしそこは 10 月の半ばまでしか空いていない(冬は閉まっている)ので、秋学期に留学する人は時期を早めに確認してから行ってみてほしい。2 学期目は車を運転できる友達がいたので、バンフやウォータートン、ペイントボールのプレイグラウンドなどいろいろな場所に出かけた。ペイントボールは、銃の中にペイントボールが入っているものを互いに打ち合う、リアルなシューティングゲームみたいなもので、スリル満点だった。レスブリッジは小さな町だが、探せば車でアクセスできる遊び場や絶景スポットのアイデアが意外と出てくるので、田舎だからとあきらめずに楽しんでほしい(私は、言って最初の方はあきらめかけた)。学期中にある 1 週間の休み、リーディングウィークには、それぞれバンクーバー旅行とアメリカ旅行に行った。そこでは想像していなかったハブニングが沢山起こったが、それを通して強くなったと思う。また、レスブリッジとは全く違う街の雰囲気や文化を体験できてとても楽しかったし、一緒に旅行した留学生の友達とたくさん話して、国籍を超えて仲良くなれたことが嬉しかった。

留学は、楽しい経験もたくさんしたが、同じくらい苦しく大変なことも多くあった。行く前は、小さなことが気になって不安が押し寄せることもあったし、実際にうまくいかないこともたくさんあった。期待通りにならずに「これでいいのかな」と自分に自信を無くすことも少なくなく、本当にたくさんの感情を経験した。しかし、そのたびに自分と向き合いどのように今の状況を変えられるのかを考えたり、それまで隠していた自分の弱さを人に見せてみたりと、時間はかかったとしても気づけば自分が行動していた。結果、今までより自分がより人間らしくなったと思う。留学はそういうものだと思う。不安も期待も落ち込みも全部含めて、自分が成長する良い機会になったと今振り返って思う。

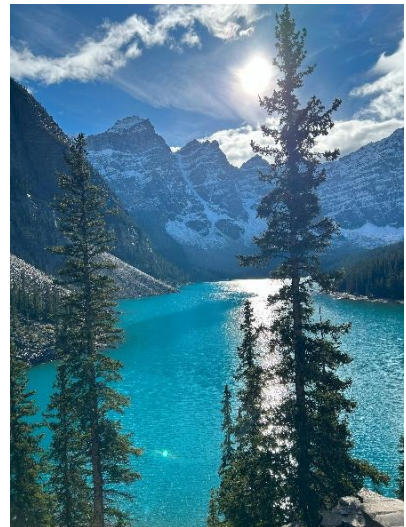
留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



レスブリッジで運よくオーロラを見ることができた。肉眼では写真ほどきれいに見えなかったが、それでもカナダにいるうちに見ることができて嬉しかった。



バンクーバーに一人旅に行った。ここはキャピラノ橋という場所で、自然に囲まれた道を思う存分散歩できて最高だった。



モレーン湖。息を呑むほど美しかった。



ニューヨークでみた自由の女神。この像をみて初めてアメリカに来ていることを実感したのを覚えている。



他の国から来た交換留学生と一緒に寿司を作った。具材以外はほぼ日本のすしと同じで、喜んでくれたので嬉しかった。今まで自分で寿司を作ったことがなかったが、ここでそのスキルを得た。